

すてきな出会い

シルバーアクセサリー作家×きらきら

新型コロナウイルスがまだニュースの中の出来事と思っていた2020年1月25日。菅原神社内のイベント『食と学びの天神さん』に出かけた編集員Oさんは賑わう境内奥の社務所にて“真鍮(しんちゅう)のブローチ作り体験”に参加しました。その時に出会ったのが今回紹介する宮崎真実さんです。

小さい頃から、ビーズ等アクセサリー作りが好きで、大阪美術大学附属大阪美術専門学校彫金アクセサリー専攻科で学ばれた宮崎さん。

「進路を考えた時、就職先は少なく、雇用条件も厳しい現実、だけど大好きな作品作りを仕事にして続けていくことを決めました。

二年生になってからもスキルアップの為に、工房が開いている時は一生懸命制作をしました。そして、卒業後は二年間先輩に付きイベント出店のノウハウを学び、その後アクセサリー作家として立ち立ちました。」



宮崎真実さん

市内在住



宮崎さんの作品は、銀ろう付けで作った小さな花のパーツひとつひとつを、ピンセット等を使って溶接するとても細かい作業。素敵な作品は、「おせんべいの缶にレンガを積んで制作をしていますよ。」と笑顔で語ってくれました。写真の作品は天然石とシルバーの花々が飾られています。とてもかわいらしく、カラーで紹介出来ないのは残念～

「アクセサリー作家として10年。昨年、《Sanctuary サンクチュアリ》という屋号で個人事業主としてスタートしました。全国のイベントへほとんど一人で出かけて行きます。そして、最近はネット販売にも力を入れています。お客さんからは“やっとネット販売してくれるのね、待っていたわ♪”と声をいただいています。各地のイベントで私の作品を求めて来てくれるお客さんとの会話が本当に楽しいです。観光地京都では外国人客にも手ごたえを感じていたので、今年は五月に台湾のイベントへ行く予定でした。(小さくため息)・・・世界に目を向けたところで、すべてがコロナで中止になり、心が折れかけたけど、世界に出たい。」

お話を聞くまではもの静かで控えめな印象でしたが、大好きをエネルギーに変えて希望と情熱でがんばるきらきらした宮崎さんを私たちも応援したくなりました。



編集員Oさんの作品

真鍮に彫った猫が宮崎さんの手でとてもきれいなブローチに仕上げてくれたよ



宮崎真実さん(右から二人目)と編集員